

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 25 年度

事業所番号	2774000992		
法人名	特定非営利活動法人 オリーブの園		
事業所名	グループホームひより(ユニット1)		
所在地	大阪府豊中市原田元町2丁目6番26号		
自己評価作成日	平成 26年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成 26年 4月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2774000992-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 26年 2月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホームひよりは入居から看取りまでの安心を、医療連携で支えています。 ・グループホームひよりの安心は、環境とケアの専門性に支えられています。
認知症ケアにおいては認知症ケア専門士やキャラバン・メイトが地域の中で積極的に啓発活動に取り組んでいます。「リスクマネジメントと業務改善」をコンセプトに、質の高いケアの維持向上を目指しています。日々の業務の中の“気づき”の芽を情報として汲み上げ、育てられるような組織風土づくり、連携の可視化に努めています。家庭的であたたかく、音楽セラピーや動物とのふれあいが出来る環境が整い、くつろぎのホームに認知症ケアの専門性をより高めた安心のホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立後14年、地域に貢献しているNPO法人オリーブの園が運営する2ユニットのグループホームです。同ホームは運営推進会議開催モデル施設としてスタートし、常に先駆的な取り組みを進めながら手本としての役割を果たしてきました。玄関前には長いテラスの小道があり、バーベキューや菜園作りなど多目的に楽しめる庭があります。親子の柴犬がセラピー犬として活躍し、音楽療法と合わせて利用者が楽しめるような環境づくりをしています。利用者は月2回の自治会会議を開き「行きたい場所、食べたい物」等の希望を出したり、食事準備、片づけ、月間予定表の記入、花の水やり等、一人ひとりが役割を持って活躍しています。管理者は介護福祉士や認知症ケア専門士を育成していますが、学習提供だけでなく、職員のクラブ活動を充実させ、情操豊かな育成を行うことで質の高いサービスを提供しています。また、行政と協働して介護職を育成したり、「介護・認知症のご相談は、お気軽にどうぞ」と看板をあげて相談活動を行うなど地域貢献にも尽力しています。24時間365日の医療連携支援を行い、医療連携チーム医師や薬剤師等と連携して、医療依存度の高い利用者の支援もしています。「施設での平穏死とは」をテーマに講演会を開催し、看取り支援を充実させ、開設以来30名以上の「お別れ会」をしています。管理者と職員は認知症ケア学会等で先端技術を学び、経験だけに頼らない効果的なサービス提供を進めています。当事業所は利用者と職員が家族のようにふれあい、共に生きがいを持って笑顔で過ごしているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	NPO法人オリーブの園は共生社会創設の理念を活動として可視化させている。ケアにあたる職員は理念を職員憲章として常に携帯している。新人研修だけでなく、継続的に理念を学びケアに反映させられるように毎年リーダーの宿泊研修も行われている。日々のケアに理念が活用されるように、毎年の標語として分かりやすくホーム内に掲げている。	『「オリーブの園」は社会福祉概念の変革を理念とし、ふれあい文化の創設をめざしています。☆人間と人間社会を見つめ、その空間と時間の歩みをデザインします。☆多様な文化や価値を認めあい、個々の生きるステージを大切にします。☆共生社会の中で自立支援のあり方や、そのプロセスを見つめてゆきます。』を理念としてホーム内に掲示し、共有しています。理念は「職員憲章9カ条」として具体化し、職員は理念と職員憲章を常に携帯して実践につなげています。また、職員憲章の中から年間標語を作成して、ホーム内に掲げて共有し、実践しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の防災訓練をはじめ、校区福祉委員会の開催する地域行事、敬老の集い、運動会など地域資源を有効に活用し日常的に交流を図っている。ひよりは法人の運営する介護予防施設が隣接しており、ご近所との集いが気軽に楽しめる事も特色である。又、職員のクラブ活動を出前活動として地域に発信させている。ノコギリコンサートや原田しろあど館でのお茶会等は大変好評で参加者も多い。	自治会に加入しており、防災訓練をはじめとして、校区福祉委員会の開催する地域行事や清掃等にも参加しています。また、利用者は敬老の集い、小学校の運動会などにも招待され、地域での交流を深めています。同法人が運営する「介護予防施設」が隣接しており、施設を利用する近隣住民と交流しています。地域商店街の花屋から生け花教室の出前を受けて、生け花を楽しむこともあります。また、地域で行われるコンサートやお茶会にも積極的に参加し、交流を楽しんでいます。ホームでは認知症ケア専門士を5名育成し、地域からの介護相談にも応えています。さらに、介護及び認知症相談の看板を掲げ、毎週1回相談日を設定し、地域からの相談を受けるなど、地域貢献にも力を入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	厚生労働省の薦める「認知症サポーター養成講座」を地域展開し、学生・企業・自治会など多くの方々に学習提供している。認知症ケア専門士がいるホームとして、事業所前には介護及び認知症相談の看板を掲げ、気軽に相談出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では医療連携している薬剤師から「薬に対する知識」の学習会や、ホームへの指導管理状況の説明、拡大運営推進会議として医療連携医より「施設での平穏死とは」の講演会を開催するなど、多くの家族にも参加を呼びかけた。毎回様々なテーマで行われているが、ホームが主体となるだけでなく、ホームを支える連携チームからも積極的に参加参画出来る様な体制になっており、運営推進会議は活発に行われている。	運営推進会議は、平成18年に「運営推進会議開催モデル施設」としてスタートし、他のグループホームのオブザーバー出席を促すなど、先進的に会議の質の向上に努めています。メンバーには、利用者や家族、地域住民代表として民生委員・校区福祉委員・自治会役員等、多くの参加があります。会議では、ホーム行事や利用者の日常報告をはじめ、ひより葬(お別れ会)の紹介等もしています。また、拡大運営推進会議を開催し、ホームを支えるメンバーからも積極的な参画を得ています。医療連携チームの薬剤師から「薬の飲み方、使い方」等の説明を受けて、薬に対する知識を習得したり、「施設での平穏死とは」をテーマに、医療連携チームの医師による講演会を開催したりする等、支援に活かしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議メンバーに市職員が参加しており、情報交換等協力関係を築くように取り組んでいる。又、豊中市の平成 25 年度緊急雇用創出基金事業の「地域介護人材就労促進事業(指導員・若年者)」を受託し、介護人材養成に取り組んでいる。	市の担当者とは常に連携を取り、情報交換をしながら協力関係を深めています。また、質の高い人材養成事業や介護予防、介護相談活動等については、市との協働も行ってきました。平成25年度は、豊中市緊急雇用創出基金事業の「地域介護人材就労促進事業(指導員・若年者)」を受託し、介護人材養成に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ひよりの重要事項説明書には身体拘束を行わない事が明記されている。身体拘束をしない為には、そのプロセスをアセスメントする事が重要である。予防計画・医療連携・BPSDに対する介護計画、家族の協力、社会資源活用等の視点をもち、身体拘束は人権侵害であるという意識を高める研修を行っている。今年は運営規程も更にコンプライアンスを守る視点を加え改定されている。	運営規程に「身体拘束等の禁止」を明記し、重要事項説明書では「身体拘束を行いません」と明記しています。職員は、身体拘束を行わない方針について理解をしており、玄関の施錠を含め、拘束を行わないケアを実践しています。管理者は、身体拘束を「人権侵害」として、職員等に研修を徹底しており、運営規程についてはコンプライアンスを守る視点を新たに加えて改定しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の人権に対する意識を、介護職として更に高めて行く事を目標に、職員会議等の機会を利用して事例検討会等も行い、現場で具体的に活用できる知識や意識がもてる様にしている。新人職員には特に「自分自身に置き換えて考える」事が出来るように自己覚知や自己開示の視点からも指導している。又、マナーの向上やホスピタリティーの向上も重要であり、外部での研修にも積極的に参加させている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてはご家族にパンフレットを配布する等を行っているが、必要とされる方には積極的に支援を行い、現在3名の方が何らかの権利擁護制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約更新時に個別面談会を開き、説明責任を果たせるよう努めている。利用者やご家族が持つ不安要因に対して、こちらからの説明だけでなく、不安に対しては十分に聴く姿勢や分かりやすさに重点を置き、信頼関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望に対しては、介護計画書の承認を得る際に、記入欄に自由に書いて頂けるようになっている。又、年に2回はご家族との電話での意見交換会を行っており、運営等に反映させられる様にしている。利用者さんの意見や要望はホーム内に自治会があり、それぞれの食べたい物やしたい事、行きたい所等は出来るだけ介護計画に反映させている。	毎月2回、利用者自治会が開催されており、会長を中心に「～が食べたい」「～に出かけたい」「～をしたい」等、利用者から意見が出され、職員は利用者自治会の意向を尊重した支援をしています。家族会は年2回開催され、具体的な要望や意見が出されています。家族には、食事、入浴、清潔、居室環境等について、詳しく記載した利用者サマリーや生活プランニング表を毎月送付し、意見を聞いています。また、ニュースレターや手紙、Eメール等を通じて、利用者家族との連携も深めています。さらに、時間を気にせず家族と話をするための機会として年に2回、電話での情報提供や意見交換をしています。家族から出された要望等は、ホームの運営に活かしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議では各個人の意見が出やすいように工夫している。QOS委員会はケアの質の向上の為の改善やシステム作りに取り組んでいる。又、それぞれの気づきを情報として収集し、運営に反映させられる様に工夫している。	管理者は、職員と個別の「コミュニケーションノート」を通じて、毎日のように職員の意見を聞き、介護等の課題について提起するなど、職員が考え、学ぶ機会を持つことで、利用者支援についての理解を深めるように援助しています。月1回の職員会議では、職員一人ひとりが意見や提案を出しやすいよう配慮しています。管理者は、職員が自己点検票や課題別のアンケートを記入することで理解を深め、職員の意欲や自主性を伸ばすように努めています。職員の提案事項については、会議で共有し、ホーム運営に活かしています。	今後は、「改善」をキーワードに職員の視点から出された32項目の改善課題を共有し、QOS委員会を中心とした「ケアの質の向上の為の改善やシステム作り」に引き続き取り組む予定です。取り組みの成果が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では職員ランクが6段階に分かれており、個々の成長度合いによりランクアップし、給与に反映されるようになっている。又、福利厚生に手厚く、資格取得助成金等も整備されている。更衣室や休憩室、コインロッカーも整備されている。又、介護福祉士受験対策勉強会や全国模擬試験の参加助成等、資格取得助成金等も充実している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて資格取得を勧め、取得に対する助成金や勤務の配慮も行っている。介護だけでなくマナー等他分野での研修にも積極的に参加させている。各個人とのスキルアップノートにより、管理者は各自が専門職として自立できるようなメンターな取り組みにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	拡大運営推進会議でオブザーバー参加として、同業者に参加を呼びかける取り組みを以前から行っている。今年は医療連携医による「平穏死とは」をテーマにした講演会の開催で交流の機会を図った。同業者とは顔の見える関係作りに取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は本人も家族も不安なことが多いと思われる。細やかな声掛け等に心がけて、慣れて頂く事を第一に計画している。自宅からの入居だけでなく、病院や他施設からの転居もあり、担当していた看護師やソーシャルワーカー等とも情報交換している。本人やご家族との相互に知り合える一步一步をラポール形成と考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のニーズは様々である。介護の苦労や疲労、思いに関わり、メール交換やカウンセリング手法も取り入れながら、個々のニーズに細やかに対応し、信頼の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に関する引越しの方法や送迎等、家族にとっては心配事も多く、事前面接や入居直前での打ち合わせ等、個々のニーズに合わせた支援を行うが、特に入居までの期間や待機の方法、場所等については、フォーマル、インフォーマル社会資源の情報提供やサービスの組み合わせ等の選択も出来るように提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の出来事や歴史を教えて頂いたり、畑作りや和風料理等、若い人たちが知らない事などを昔とった杵柄で教えて頂きながら、相互のラポール形成の構築は“共に在る”ことの喜びであると捉えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と利用者さんの関係が、入居時からこじれている場合もあり、関係改善に介入する事も含めて季節の衣替えや、さりげない日常生活の生活リハビリを通して、絆の改善に努めている。共同作業の中で利用者さんの残存能力や生活者としての強みを認め、関係の再構築をするプロセスに、共に関わる事でご家族、利用者さん、職員の相互の対等な関係を深めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会日や時間においても常識的な範囲であれば特に制約していない。グループホームに入居しても以前の馴染みの関係が断ち切れることなく過ごせるように支援してゆく方針である。	ホームには、友人や知人、近隣からの来訪があり、活気があります。馴染みのスーパーや商店街へ買物に出かけたり、美容院へ行ったり、家族と出かけたりしています。希望があれば、手紙を書いたり、電話をかけたりする際の支援もしています。携帯電話の持ち込みも可能です。居間や玄関等には、昔馴染みのお雛様や置物等を置いて、古き良き時代を懐かしく感じられるような共有空間づくりをしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	クラブ活動やレクリエーションを通じて仲良くなれる機会の提供や、誰と入浴し、誰と食べたい等のニーズを受容し、グループミックス効果を有効に活用できるように計画し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自立されて自宅に帰られた時や、死亡退去された家族さんにも折にふれて必要があれば相談にのっている。再入居等の希望にも気軽に応じており、関係を断ち切らない取り組みをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月2回の利用者主体の自治会があり、一人一人の思いの表出を促している。又、日々のコミュニケーションの中でも要望が引き出せる様に努め、ルチンワークの中に個別ケアの視点や自立支援、本人の強みを活かせる支援を大切にしている。	利用者自治会を月2回開催して一人ひとりの思いや希望を出してもらい、ホーム運営に活かしています。意見や希望を出しにくい場合には、日常の会話の中で職員が個別に意向を確認したり、しぐさや表情、行動から、利用者の意向を確認したりしています。大学と提携し、眠リスクを活用した睡眠状況の確認や、尿意で目覚める時間の確認等を行い、利用者がより快適に過ごせるよう、また、職員が効果的な介護を行えるように先駆的な取り組みも進めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出生地や方言、食事の味付け、習慣等も回想法に活用し、パーソンセンタードケアとして安心して生活できるようにバックヒストリーを収集し、エンパワメントサポートに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心と体の健康やその日々のリアルニーズに常に気づき、サポートして行くプロセスが日常である。バイタルチェックだけに頼らず、その日の機嫌や活動の様子から生活リズムを整える事を、自訴からも、客観的観察からも捉えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は毎月毎に立案されるが、日々の状況に応じて変化するものである。毎日のケース会議において情報収集、計画の変更等を行い、PDCAサイクルを回している。計画方針は本人、ご家族、職員、医師、看護師等の意見を反映させている。又、1 年を通したモニタリング評価や年間まとめ等も行っている。	入居面談時には、それまでの暮らしぶりや趣味、嗜好等について、できるだけ多くの内容を聞き取り、記録に残しています。介護計画作成時には本人・家族の希望や意向を確認し、提携医師、看護師、薬剤師、職員等の意見を反映して作成し、ケアミーティングで確認しています。長期目標、短期目標については、ケアプラン実施記録を活用し、モニタリングをしています。利用者家族には、介護計画書を送付して確認してもらい了承サイン、捺印をもらっています。介護記録等は独自のソフトを作成し、データ管理していますが、紙媒体でも保存しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の基本マニュアルをベースに、個別支援サービスマニュアルを作成している。P・D・C・A方式で立案し、サイクルさせるための情報共有システムがあり、電子カルテを利用した介護記録となっているため、同時に個々のモニタリングも行え、情報の共有や見直しも容易である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ある時は実習施設となり、又ある時はホスピスとなったり、地域の集会所となったり、家族の宿泊所となったりと多機能であり、柔軟なサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム入居後も入居前と変わりなく、馴染みの美容院でパーマや毛染めをしたり、うどん屋さんや食堂に行ったり、敬老の祝賀会や運動会等校区の行事、並びに校区福祉委員会の主催するカフェ等にも多く参加できるように、安全に配慮しながら支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間365日いつでも往診可能な、往診専門の医療機関と提携しており、月2回の定期往診により、居宅療養管理が出来るように支援している。又、かかりつけ医から医療連携医にスムーズに移行できるようサポートし、耳鼻科や皮膚科等の専門医については入居前のかかりつけ医に引き続き受診、往診出来る様にサポートしている。	ホームでは利用者・家族の意向を大切にして、適切な医療が受けられるよう支援しています。往診専門の医療機関と連携し、月2回の定期往診、24時間365日、必要時にはいつでも医療支援が受けられるようにしています。また、処方される薬剤については、薬剤師から詳細な説明が得られるように、また副作用等の相談もできるよう連携しています。耳鼻科や皮膚科、眼科等については、入居前からかかりつけの医療機関への受診を支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携施設として看護師がいる。介護士は健康上の気づきを看護師に報告し、指示を受けたり、必要に応じてスーパーバイズを依頼する。看護師は医師、薬剤師と情報を共有し往診等の調整を行う。又、看護師は職員の健康管理やホーム内の保健、衛生も指導管理している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	グループホームから病院に対してのサマリーを提供しているが、更なる質の向上を目指してフォーマットの改善を行った。又、病院のMSWとも連絡調整している。特に精神科の入院は退院までの間、病院側との連絡調整、情報交換等を密に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より概ね 10 日を目安に、終末や急変、延命、ご家族のあらゆるニーズに対しての話し合いが行われている。その後も定期的に、又、適宜必要時にインフォームドコンセント機会の提供がある。医療連携している為、ご家族が参加できる看取りや、希望により「お別れ会」等も手づくりでサポートしている。	入居面談時に利用者・家族へ終末期支援方針を説明し、重度化した場合は、意向を再確認しながら対応しています。看取り支援については、家族、看護師、医師、薬剤師、職員等、利用者支援に必要なメンバーでカンファレンスを行い、具体的な支援計画を作成しています。職員はごく自然に看取りの体制を作り、利用者が安らげるような環境を整えています。家族には、いざという時慌てないよう、事前に十分な状況説明をしています。終末期には家族が宿泊できるよう配慮し、家族と力を合わせて利用者との「お別れ会」を手作りで行い、これまで30名以上の方を見送りました。「お別れ会」の記録を生前の写真と共に製本して、家族に提供しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が救命講習を受講し、豊中市消防本部より市民救命サポーター・ステーションに認定されている。救急マニュアルも職員各人に渡し、訓練も定期的に行っている。特に食事の誤嚥についてはトレーニングを重ねている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害・地震を想定して自治会の防災訓練等にも参加し、地域との協力体制構築に努めている。又、昨年は地域ボランティアの方々に防災頭巾を作っていただく等の協力も頂いた。尚、万が一の水害にも備え全員分の救命胴衣も設置し、地震対策として家具の転倒防止対策も行っている。	消防署と連携した災害対策を行っています。地域自治会の防災訓練にも参加し、地域との協力体制を築いています。防災・避難・通報訓練については、ホーム独自の取り組みを合わせると年に5回実施しています。そのうち1回は、消防署立会いのもと避難訓練を行い、緊急時対応についても実地訓練しています。運営推進会議メンバーにも参加を得て、避難訓練を行っています。訓練に参加して利用者搬送に携わった家族から、「良い経験になった」等の感想が寄せられています。利用者は、地域のボランティアに作ってもらった防災頭巾をかぶって避難訓練に参加し、日常の散歩コースとなっている避難場所の小学校まで歩いて行く取り組みを続けています。水害に備えて、利用者・職員全員分の救命胴衣も確保し、非常時用の水や食料品、カセットコンロ等の備蓄をしています。また、緊急持出し用の「利用者に関する記録やデータ」等も準備し、保管場所等を職員に周知徹底しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現場においては慣れが生じやすく「常に自分に置き換えて考えられる力を養う」事や「自分の感受性に敏感である事」を介護の専門性として自ら磨きを続け、自己の介護観の柱として人権や倫理が立てられるような人材育成に取り組んでいる。	人権や倫理についての研修を行い、言葉かけや対応について利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを大切にする支援を徹底しています。個人情報保護についての法律遵守及び、秘密の保持については、職員入職時に交わす雇用契約書に記載しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	家庭的な共同生活の中では遠慮なく、“ひより喫茶”等で自己決定や自己選択が出来る雰囲気があり、月2回のひより自治会等も利用者間で運営されている。その中で活発な意見も出されており、職員はそれらの要望により、行事計画を立て実践するが、食生活や衣生活等の日常の中の自己表出も大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的で有機的な人や物の関係作りを通して、その人らしい暮らしを大切にしている。共同生活であるメリットも活用しながら、柔軟に一人ひとりのペースを支えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはその方の自尊心を守る大切なものであり、外出時等はTPO、特に衣生活に関しての見当識に介入している。毛染めやパーマ等の為に美容院に出かけたり、マニキュアや化粧などにも心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	非日常の季節行事食やお楽しみ食等も取り入れている。家庭的で和やかな食事環境は、コミュニケーションも含めて食の文化性と考え大切にしている。又、ひより農園で栽培した自家製の食材や、国産食材にこだわっている。食事の支度や後片付けは、利用者さんの持てる力を大切に、生活リハビリや役割として一緒に行っている。	調理師を雇用し、食事づくりに専念できる環境を整えています。利用者の希望に添って献立を作り、国産の新鮮な食材を調達して見た目も美しく、バランスのとれたおいしい食事を提供しています。職員は利用者と食材の買物に出かけ、利用者は下ごしらえや盛り付け、配膳、片付け等、得意な分野で活躍しています。また、毎日のおやつ作りも楽しんでいます。法人で管理している畑で、職員が育てた農産物やホーム菜園で利用者と共に育てた野菜を調理し、味わうことも日常のこととなっています。利用者自治会の希望で外出に出かけたり、焼き栗を楽しんだり、お節づくりをしたりして、楽しんでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分補給の目安は計画の中に入っており、不足する場合は食事形態や嗜好に配慮している。夏季や冬季はホーム全体の脱水対策を心掛けている。又、BMIの変動もモニタリングし、栄養バランスにも心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔の清潔や感冒・感染予防の為にマウスウォッシュを行っている。半年に1回は全員定期健診を行い、指導していただいている。必要な方は往診して頂いたり、地域医療につないだりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は昼夜の排泄パターンや個別のサインをつかみ、着脱の容易な衣類の工夫で自立を促す事や、定時や適宜の誘導により、又、失敗につながらないように環境を整え個別支援をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを確認し、声かけやトイレ誘導をタイミング良く行うことでオムツ類はできるだけ使わず、失敗に繋がらない支援を心がけています。利用者が自分でできることについては、極力見守りながら、状況に合わせた対応をしています。水分摂取量と排尿との関係を観て水分補給を行い、できるだけ薬を使わず排便がスムーズに行えるように支援しています。夜間の排泄パターンが掴みにくい場合には、ねむりスキャンを活用して排泄パターンを把握するなど、先駆的な取り組みもしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は水分・運動・セルロースの多い食事が関与しており、一人々の飲水の日安などを定めている。又、季節や発熱によって不感蒸泄にも配慮し、水分補給には特に気配りすると共に腹部マッサージ等も計画されている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は清潔を保つだけでなく、心のホリデーやコミュニティ形成の場でもある。リラックス出来る入浴剤の工夫や、菖蒲湯、ゆず湯等季節を楽しんで頂いている。仲良しで入浴できるように環境の提供に努め、グループミックス効果を計画している。	入浴については、利用者の希望に添って週3回程度の入浴をしています。利用者同士で入浴する方や、一人で入浴を楽しむ方もいます。ゆず湯や菖蒲湯等の季節風呂を楽しむこともあります。また、健康志向から日本の温泉シリーズの沐浴剤を使用し、利用者から喜ばれています。職員は入浴介助をしながら、利用者とのコミュニケーションを深めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホーム内はゆったりしてヒーリング音楽も提供している。居室は温度や湿度が管理されて快適に過ごせるように配慮されている。ベットは快適なリネンが整えられて、いつでも休息できる環境である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の薬ボックスへの薬のセットは薬剤師に依頼している。服薬時は、顔・名前を2人で確認している。薬の知識についても副作用や留意点に至るまで学習を提供し、その冊子はいつでも見ることが出来るよう定位置に備えている。又、降圧剤、血糖降下剤等の服用者リストも定期的にチェックしており、入院時等の投薬情報としてお薬手帳も管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内の自治会やクラブ活動等もあり、自己実現としての発表会の場や機会も生きがい支援として行っている。ホーム内での個々の役割は生活リハビリとして日常の中に位置づけられているが、職員はおやつ作りや手作り料理の手ほどきを等を受けている。それらが役割や生きがい支援ともなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	校区福祉委員会主催の地域カフェには定期的に出かけ、昔懐かしい古民家を楽しんで頂いている。近くの公園に散歩に行く日常もあるが、外出行事は“自治会”により、利用者さんの希望や要望を聞き、梅・桜・バラ・菖蒲・紅葉等々の季節のドライブを近場で楽しんで頂いている。又、個別のお買い物等は日常として支援している。	外食に出かけたり、買物をしたり、近くの公園を散歩したり、緊急避難場所に指定されている小学校まで歩くなど、日常的に支援しています。また、校区福祉委員会主催の地域カフェにも定期的に出かけており、昔ながらの古民家での地域交流を楽しんでいます。年間行事企画では利用者自治会で出された「行きたい場所」に出かけて楽しんでいます。職員も利用者と外出することを楽しみにしており、出かけた場所での利用者の笑顔や景色を、写真集やビデオにまとめ、ホーム内に掲示するなどして家族等に喜ばれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別のお買い物支援や外出時のドライブイン等ではご家族へのお土産を買う等の個別の買い物もサポートしており、お金が使える機会も計画に取り入れている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙、礼状の代筆や年賀状書き、又、家族からの電話の取次ぎも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大切にし、ホーム全体が醸し出すレトロな雰囲気大切にしている。音楽や香り、花や緑、熱帯魚やセラピー犬等とのふれあいもリラックス感がある。ホーム内は季節に合わせてレイアウトも変更し、有機的な空間のホスピタリティを大切にしている	ホームの敷地に入ると、玄関まで続く長いテラスの小道があり、オリーブの木が植えられ、テーブルとイスを置いたくつろぎのスペースが設けられています。また、利用者と職員が、家庭菜園、焼き栗・バーベキュー等を楽しめるよう、多目的に活用できる庭があります。庭には親子の柴犬が駆け回り、セラピー犬として利用者を和ませています。玄関を入ると古民家風の調度品があり、季節の生け花を飾り、熱帯魚が泳いでいる落ち着いた空間に、緊急時に使用するAED(自動体外式除細動器)が違和感なく配置されています。廊下にはイスやソファを置き、足元にはホットカーペットを敷くなど、利用者がゆっくりくつろげるようにしています。居間には昔ながらのお雛様を飾り、季節を感じながら楽しめるようにしています。手すりは利用者の希望を活かしてデザインされ、周囲と馴染んだものになっています。清掃専門職員を配置し、浴室やトイレも清潔に使いやすく工夫しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は緑・水・音・湿度・温度等に配慮し、どこでもくつろげる空間作りをしている。又、癒しのDVD等でリラックスできる空間も提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には“笑顔のボード”の写真コーナーを設置し、思い出を振り返れるような工夫や、冬はコタツを使用する方もあり、本人の住みなれた部屋をできるだけ再現できるように使い慣れた家具等も持ち込んで頂く等の工夫をしている。	利用者は、居室に使い慣れた家具やテレビを置き、冬にはコタツを持ち込むなど、自分らしい居室にしています。居室には「笑顔のボード」として、写真コーナーを設置し、利用者の笑顔を掲示しています。備え付けのエアコンや空気清浄器、流し台もあり、流し台の下に収納庫にはボランティアに作ってもらった防災頭巾が収納されており、避難訓練時に活用しています。職員は、利用者の状況に合わせて和室や洋室の選択を勧め、居室の表札や周辺のデザインをそれぞれ違った色や形にして分かりやすく工夫し、自立支援に活かしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の表示は言葉のセンテンスを少なくし、さりげない中にもわかりやすさを工夫している。見当識障害に配慮し、居室の表札の工夫、ADLに合わせたの洋室や和室の選択、それぞれの自立を促すため、表示やデザイン等わかりやすさを工夫し、より家庭的な環境作りに努めている。		